

# 研究成果の紹介

## 1 ヤブサンザシの花芽数の確保

### ねらいと成果

ヤブサンザシは実付き花木として氷上郡青垣町や佐用郡佐用町で、9月～11月にかけて、切り枝生産されている。近年産地では着花数減少による実付き不良枝が発生し、品質低下が問題となっている。そこで、花芽形成面から花芽減少時期を明らかにするとともに、その減少を防止する施肥法を検討した。

花芽数の減少は花芽発達過程の花弁分化期頃（10月中旬）に誘発されることを明らかにした。また、施肥では花芽分化期頃（8月下旬）の追肥を行うことにより、花芽が退化することなく発達し、開花時には1節の正常花芽数である6小花をほぼ確保できた。

### 内 容

青垣町市原ほ場で8月下旬から定期的に2年生枝に形成された腋芽を採取し、花芽の分化、発達程度を顕微鏡で観察した。その結果8月25日頃から生長点肥大が認められ（平均気温25℃前後）、9月11日には花房分化期に達した。以降雌ずい分化期の12月25日まで休眠することなく花芽が発達した。胚珠形成期は90日程度の休眠期を経て、開花7日前の3月25日であることが観察された。また、腋芽の小花は、花房分化期までは6小花とも同じ大きさで肥大したが、がく片分化期には肥大程度に差異がみられ、花弁分化期には4.7小花、胚珠形成期には3.3小花と減少し、開花に至った（表1）。

花芽が減少する9月中旬～10月中旬は切り枝収穫が集中する時期でもあり、収穫が花芽の減少に何らかの影響を及ぼしていると推察された。

また、ヤブサンザシの施肥は3月頃の開花・結実する前に行われる。これは新梢の伸びすぎを抑え、2年及び3年生枝の結実状態がよくみえる荷姿にするためである。

花芽分化時期が8月下旬であることが判明したので、新梢の伸びが止まり、花芽分化が始まる8月下旬の追肥が花芽数に及ぼす影響を検討した。青垣町市原ほ場で、3月1回施肥では小花数が3.6個（10月20日）であるのに対し、3月と8月の2回施肥では正常個数である6.0個に近い5.7個となり、開花期までその状態が維持された。青垣町稲土ほ場でも同様の傾向を示し、8月追肥は花芽数の減少を抑える効果を認めた（表2）。

### 今後の方針

後期施肥効果を実証する。また、切り枝本数、時期と小花数の変化を明らかにし、収穫法を改善する。

和田 修（中央農技・園芸部）

表2 8月追肥が花芽数に及ぼす影響（1999）

ほ場名	施肥時期	10月20日の小花数/節	開花時の小花数/節
青垣町市原	3月	3.6	3.2
	3月と8月	5.7	5.7
青垣町稲土	3月	4.2	4.0
	3月と8月	6.0	6.0

化成肥料（10-10-10）で3月25日に8kg、8月25日に4kg/aを施肥した。

表1 花芽発達段階時期と一節の小花数の変化（1998、青垣町市原ほ場）

項 目	花 芽 発 達 段 階							
	生長点肥大期	花房分化期	がく片分化期	花弁分化期	雄ずい分化期	雌ずい分化期	胚珠形成期	開花期
時期（月・日）	8.25	9.11	9.18	10.13	11.18	12.25	3.25	4.2
小花数	6.0	6.0	6.0	4.7	3.6	3.3	3.3	3.3